

## 任 職 考(ひとりごと)

もう、何がなんだかわからないですね…。

コロナ、ワクチン、オリンピック、リニア etc... 領海侵犯、シリア空爆、ミャンマーのクーデター、私たちの生活は変わらず厳しいままなのに、株価は上昇バブルの様相…。日本国内のみならず、世界中がもう、メッチャクチャ…。何が真実で、何が嘘やら(フェイクやら)…。

今号の表紙には、歎異抄(たんにしょう)という書に遺されている親鸞聖人の言葉を掲げました。

『そらごと・たわごと・まことあることなき』とは、元は聖徳太子がおっしゃった『世間虚仮 唯仏是真(世間は虚仮なり、ただみ仏のみぞ真なり)』に由来しているかと想像しますが、親鸞聖人ご自身が、生涯を生きる中で「本当にそのとおりだなあ」と頷かれておっしゃった言葉なのだと思います。

現代においても、ほんとにウソばかりだなあ…。うわべばかりだなあ。いったい何が真実なんだ？と思えることがたくさん毎日のことですね。

けれども…、じゃあ私にウソはないか？真実を生きているか？自分を偽っていないか？本音でモノが言えているか？本当に大事にすべきことを大事にして生きているか？他人のことばかり批判して、自分自身を省みているだろうか？虚しい一日を過ごしてはいないか？…と、自分を深く問うてみると、どうでしょう…？私自身も『そらごと・たわごと・まことあることなき』であったりしませんか…？

数年前に 『サピエンス全史』 というイスラエルの歴史学者の書いた本が流行しました。なんとそこには、ネアンデルタール人ではなく、私たちサピエンスという人類が生き残れたのは、噂話を信じる認知革命が起きたからだと書いてあるのです！

私たちの言語は噂話のために発達し、見たことも触れたこともない、存在や真偽を確認できないものについての情報を伝達し、共有するために発達したのだ。その新しい思考と意思疎通の認知革命が起きたからこそ、大きな社会を形成し、他の種の人類との競争に勝ち、生き残ることができたのだと書いてあるのです！

猿でも何でも、動物はそれぞれ鳴き方や声色を変えて危険が迫っているなどの伝達をし合うわけですが、サピエンスの噂話というのは「今朝、あっちの方にライオンがいたらしいぞ」という話ができるわけです。また、誰が誰を憎んでいるとか、誰がまじめで誰がズルをするとか、そういった情報の共有が大人数の社会が協力しあっていく上では不可欠なのだ。



『サピエンス全史(上・下)』(河出書房新社)

おもしろいですね！今の、私たちの社会そのものですね。テレビや新聞、ネットなどの情報はまさに噂話です。自分で見たわけでも、触れたわけでもない確認していない情報を信じているのですからね…。結局私たち人類は、本来的に「そらごと・たわごと・まことあることなき」という性質の生き物なのだというのでしょうか…？

話は変わって、古くから伝わる「三方よし」という滋賀県近江の行商人が大事にしていた精神をご存知でしょうか。

「三方よし」とは・・・

良い買い物をして買い手は喜び「買い手よし」、  
買い手に感謝されて売り手も喜び「売り手よし」、  
良いモノが世間に広がることで世間も活気づき、  
喜びの輪が広がって「世間よし」ということです。  
売り手が自己の利益のみを追求せず、買い手に喜ばれる



商売を心がけることによって、それが世間にも喜ばれる商売となっていく…、今で言うなら Win-Win…いや Win-Win-Win ですね。

近江商人の商売は、江戸時代には全国にまで拡大していたそうなので、さぞかし良い噂話が広がっていったのでしょうか。これもきっと、“サピエンスの認知革命”の成せる技なのでしょうね。

ちなみに、現代でもよく使う言い回しに「～させていただく」という言葉がありますが、これも近江商人から始まったのだと聞いたことがあります。近江の地は、古くから浄土真宗の教えが根付いていたことを考えると、南無阿弥陀仏の精神が商売の根っこにあったのだとも考えられます。

近頃は昔と違って、良い噂話も悪い噂話も、驚くほど早いスピードで伝わる時代です。しかも世界中にその情報は瞬時に流れ、自分の元にも届きます。

毎日、テレビや新聞、ネットなどから膨大な情報が流れてきます。

しかし、それらの情報は本当に必要でしょうか。自分が求めてもいない情報や、自分の生活に関係のないような情報が多すぎると、私たちは惑わされて思考停止してしまいがちです。自分の頭で考え、自分の意思を明確にすることを忘れてしまいがちです。

「テレビでこう言っていたから」とか、「誰かが言っていたから」と、疑うことなく情報(噂話)を信じることの危険性があるように思います。

そもそも情報は噂話なのですから、どこまで真実なのか、確認のしようがないのでわかりません。

私にとって何が本当に大事な情報なのか、何が必要で何が不要な情報なのかをよく吟味して、判断していきたいものです。

そこで重要なのは、私は何を求めて生きているのかということです。自分が求めていることが明確であれば、余計な情報に惑わされたり、振り回されることも少なくなるでしょう。

もっと単純に考えれば、たった今、見聞きしている情報によって、私は幸せになれるのかどうかです。もしそうでなければ、その情報は不要であり、取るに足らないものと言えます。ひとりひとり、関心事や大事にしたいこと、幸せの定義すら異なるものです。だからこそ、何が正解で何が間違いかではなくて、私自身が何を求めているのか、何を大事にしたいのか、じっくりと考えてみて

はいかがでしょうか。

家族が大事だ、仕事が大事だ、財産が大事だ、国家が大事だ、親から受け継いだものが大事だ、今だけが大事だ、健康が大事だ、長生きが大事だ、何だって良いのです。それが幸せだと思えるならば…満足とは言えなくても、納得のいく最期を迎えることができるのではないかと…。

いったい何が真実なんだ？という問いかけに、きっとお釈迦様は「その答えはあなたの中にありますよ」とおっしゃるのではないかと思います。

この紙面も「そらごと・たわごと・まことあることなき」ですが…、それでも誰かのお役に立てれば幸い、一人でも「ありがとう」と喜んでもらえたなら幸い、さらにその喜びが「三方よし」と広がっていく事となれば幸い、と思いながら…、私のひとり言を取り留めもなく、自由に書かせていただきました。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

皆様の幸せとご自愛を心より念じ申し上げます。

合 掌

住職 釋 健雄